

芸術鑑賞会「オペラ座の怪人」の鑑賞について

21日(金)に本年度の「芸術鑑賞会」として、キャナルシティ博多において劇団四季の「オペラ座の怪人」を鑑賞してきました。本校では以前は、ずっとキャナルシティ博多において劇団四季の公演を鑑賞してきていました。しかし、コロナ禍となり、さらに、劇団四季がキャナルシティから撤退したことも重なり、それ以降はなかなか劇団四季の公演を鑑賞できずにいました。そして、今回、劇団四季側から「11月のこの時期なら『オペラ座の怪人』の公演を鑑賞できますよ」と話が持ち込まれ、鑑賞を決定した次第です。6年生にとっては、受験期の大切な時期でもあり、迷いました。ただ、コロナ禍に入学した6年生をはじめ、全校の子ども達はこれまで「芸術鑑賞会」で1回も劇団四季の公演を鑑賞したことがありませんでした。**6年生にとってはこれが最後のチャンス**となります。そこで、今回の公演の鑑賞を決定した次第です。



また、「オペラ座の怪人」という公演の内容から上学年のみの鑑賞の方がよいのではないかと考えましたが、少人数でつながりが強い本校の子ども達ですので、**学校みんなで一緒に鑑賞するということを選択しました。**確かに舞台では暗い場面、恐ろしい音楽や音響などで怖がってしまう子もいました。さらに、男女が抱擁したり、人の死を意味したりする場面もあり、低学年の児童にとっては刺激が強かったことと思います。そのことで**何か不安が残っていることがあればお申し出ください。**ただ、舞台の美しさ、歌声の素晴らしさ、映画とは違う生の演劇の壮大さに、きっと子ども達は心打たれたのではないかと思います。

そしてさらに、帰りのスクールバスでは、バスと乗降場側の連絡の行き違いで出発が遅れたり、予想以上の渋滞があったりしたために、**予定時刻を大幅に遅れてしまいましたこと、大変申し分ありませんでした。心からお詫びいたします。**そうした状況下で保護者の皆様には長時間待っていただいたにもかかわらず、笑顔で子ども達を迎えてくださった上、私たちへねぎらいの言葉まで頂戴し、こちらこそ大変ありがたく思っております。心より感謝申し上げます。

感じたことから

子ども達が鑑賞した劇団四季の「オペラ座の怪人」のあらすじは次のようなものです。

醜い顔を仮面で覆い隠したファントムは、コーラス隊の一人であるクリスティーナに歌の素質を見出します。そして、彼女に音楽の指導をし、彼女を一流の舞台女優にしようとします。彼は様々な悪行を繰り返しながら画策していくうちに、彼女の才能は徐々に世間に認められるようになっていきます。しかし、ファントムの彼女への思いとは裏腹に、彼女は幼馴染のラウルに惹かれ婚約するに至ります。ファントムは嫉妬に狂い、蛮行はエスカレートし、とうとう人を殺めてまで彼女に自分を選ばせようとするのです…。

といった内容でした。

この公演を鑑賞した子どもたちは「ちょっと怖かったけれど面白かった!」「舞台がとても豪華で綺麗だった!」「歌や踊りが素晴らしかった!」などと感じてくれていたようです。このように子ども達が喜んでくれて、企画した私たち職員も嬉しい限りです。

ただ、せっかくの素晴らしいお話なので、お話の中から子ども達に少し考えてもらいたいこともあるかと思い、ちょっと整理してみました。

ファントムは、その醜い顔ゆえに音楽や発明など様々な才能があるにもかかわらず、檻に入れられ、社会から疎外され、世の人々に憎しみをもつようになっていきます。

このことは、世間が「醜い顔」を負うものとしてとらえ、差別することの愚かさを物語っています。差別されたファントムは世間から受け入れられないコンプレックス(醜い顔)を仮面で隠します。そして、心の闇が膨れ上がり反社会的な行動を引き起こしているのです。

誰しも、何らかのコンプレックスをもっていると思います。子ども達も同様でしょう。例えば、「スポーツが苦手」「テストでなかなかいい点数が取れない」「友達の輪の中に上手く入れない」「身体の悩み」等様々かと思えます。その時に、ファントムを檻に入れ迫害した人たちのように、周りのみんなが、そのことを**馬鹿にしたり、からかったりしたり、毛嫌いしたりしてしまうと、当人のコンプレックスからくる心の闇は大きく膨らみ、苦しみまでも肥大化させてしまうことになりかねません。**

それに対して、クリスティーナはファントムの素顔を見ながら「顔に醜さはありません。心に『穢れ』があるのです」と語りかけます。

この言葉は、そのコンプレックスからくるファントムの苦しみを理解しているものだと言えるでしょう。そして、彼女の寄り添う姿に、ファントムの心は衝撃を受け(浄化され?)、自分のこれまでの行いを悔いるように終演となります。

子ども達にも、周りにいる人のコンプレックスからくる苦しみを理解したうえで、寄り添うことができる人になってもらえればと願っています。**誰もがもつコンプレックスを、関わり合う多くの友達が相互に受け入れ合うことができれば、それを隠すことなくありのままの自分を存分に表現できるようになるでしょう。**すると、一人一人の心はきっと穏やかなものになり、さらに、そのコンプレックスを克服する強さを得ることにつながるように思います

演劇を観た拙い感想ですが、子ども達にも少し考えてもらえれば幸いです。

